



明日に向かって 伝える 続ける

パルシステム

放射能レポート

pal*system

2024年9月1回

次回は2月企画予定です



東日本大震災松戸・東北交流プロジェクト(千葉県)

2012年設立。翌年1月から、千葉県松戸市や近隣地区の避難者同士、避難者と市民の交流の場「黄色いハンカチ」を運営しています。ほかにも、地域の防災意識向上をめざし「防災井戸端会議」にも取り組んでいます。

東京電力福島第一原子力発電所事故被災者応援金

継続した支援のため
ご協力をお願いします。

現金または、ポイントで募金できます。
6桁の注文番号を入力してください。

現金募金	ポイント募金
300円(ポイント)	186601 169056
1000円(ポイント)	186619 169064

●注文用紙、インターネットでいつでも受け付けています。

●インターネットの場合「買い物カゴ(注文内容確認画面)」にある「利用ポイント」より「変更」を開き、入力してください。

ほかにも応援金はこのように使われています。

甲状腺がんの
検診費

放射能に関する
学習会の開催費

被災者・避難者の
カウンセリング費

伝統行事を守るための
イベント開催費

放射能測定の
ための諸費用

被災地情報発信の
ための広報費

※一例です

9月2回の「ポイントカタログ」でも
支援団体の活動を紹介します

同サロンを運営する「東日本大震災松戸・東北交流プロジェクト」とパルシステム千葉が合併したのは2017年。各都道府県から自主避難者への無償の住宅提供が終了するなか、パルシステム千葉が諸関係団体と共同で千葉県へ支援要請を行ったのがきっかけです。2022年度からは、「東京電力福島第一原子力発電所事故被災者応援金」を助成開始。「震災から13年、公的な支援は先細っています。『黄色いハンカチ』も一時は活動資金が準備できずに、存続が危ぶまれました」

そう話すのは、事務局長の高田良子さん。「パルシステムからの支援の申し出と、組合員のみなさんからいただく応援金には本当に感謝しています。そのおかげで今でも活動が続けられるんです」

地域のため、被災体験を役立てたい

元気づけられたそう。「これまで私たち避難者は多くの方からの思いやりに支えられてきました。今度は私たちの番です」2019年、門馬さんは共同代表に就任すると、「防災井戸端会議」とは、地域の防災意識を高めるため近隣の住民や知り合いで集まり、災害が起きたらどうするか、気軽に意見交換を行う場です。ときには自分たちが語り部となつて震災体験を語り聞かせ、または防災アドバイザーなどの専門家を招き学習会を行うこともあります。拠点での定期開催に加え、市内の各所で出張開催もしています。

「受難として抱え込むのではなく、大事な学びとして後世へ語り継いでいく。それが、多くを失った私たちにできる数少ない恩返しなんです」

また、地域の高齢化などを鑑み、今秋からは「災害弱者」の避難をテーマに新しい計画をすすめています。

「『避難者同士の情報共有の場』という枠を超えて、今では参加する市民の方にとつても心のよりどころです。今後も応援をお願いします」

梅雨間に太陽がのぞいた7月某日。千葉県松戸市のマンションの一室では、手作りおやつやコーヒーを手に談笑する、和気あいあいとした光景が広がっていました。時折福島弁の飛び交うここは、松戸・東北交流サロン「黄色いハンカチ」。東日本大震災と福島第一原子力発電所事故による避難者と松戸市民の憩いの場です。



被災者と地域住民が集う社交の場

パルシステムの公式サイトや注文アプリで放射能検査の結果や内容が確認できます

検査結果を毎週お知らせ

公式サイトから見る場合

- ①公式サイトを開く
- ②トップ画面を下にスクロールする
- ③「News お知らせ」から「放射能検査のお知らせ」を探してクリックする

注文アプリから見る場合

- ①トップ画面の「メニュー」をタップする
- ②「メニュー」画面の「商品関連情報」をタップする
- ③「商品関連情報」画面の「放射能検査結果」をタップする

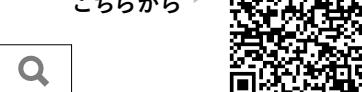
検索して見る場合

「お知らせ」のページは
こちらから

放射能 お知らせ パルシステム



※トリチウム検査の結果は、毎週ではなく検査毎に都度更新します。



検査基準・方法はここから確認

- ①「パルシステムの放射能検査はこちら」をタップ



- ②「放射能検査」のページに移ります



※画面は見本です。

「放射能検査」のページはこちらから



東京電力福島第一原子力発電所事故被災者応援金

これからも被災者・避難者を支えています。

福島第一原子力発電所事故が発生した2011年から、パルシステムでは被災者・避難者の支援を続けています。2023年度は過去最大となる新規9団体を含む25団体に総額1,890万6,600円を助成することができました。13年が経過した今でも、これだけ多くの支援を続けられているのは、温かな組合員の協力があってこそです。

公的な助成金は使い道が大きく制限されるのに対し、パルシステムの応援金は団体の審査を厳しく行い、その後の使い道は各団体にまかされているという違いがあります。その用途

は多岐にわたります。被ばくが疑われる被災者らの健康管理や、放射能測定はもちろん、震災や原発事故による心のケアなどさまざま。いずれも長期的な支援が不可欠であり、公的支援が先細るなかで、パルシステムの応援金は貴重な存在となっています。

また、新規団体への助成も引き続き行っています。時代の流れとともに、必要とされる支援の形は変わっていきます。そのなかでも、助けを必要とする人たちがいる限り、パルシステムは被災者・避難者を支え続けます。

放射能対策に取り組み続けます。

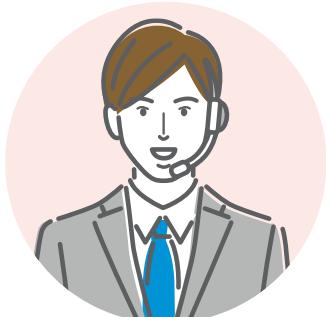
パルシステムは、2011年3月の東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所の事故直後から、放射能対策を進めてきました。2011年9月には食品中の放射能の自主基準を設定、国より厳しい基準でお届けする食品の放射能検査を行っています。また、放射能が検出された産地と協力した低減への取り組みや、被災者への支援も続けてきました。今後も放射能検査や対策を続けていきます。

インターネットから見られない方は、
下記よりお問い合わせをお願いします

パルシステム問合せセンター

0120-868-014

※通話料は無料です。※お問い合わせ内容の確認とサービス向上のために、通話の内容を録音しております。



2024年の新規支援団体を紹介します

浪江ネットワーク（茨城県）

福島県浪江町から避難したシニア世代中心の互助組織。定期的なお茶会や、外出機会が減った参加者を元気づける目的で交流会を企画しています。「ふうあいネット」らほかの支援団体とも連携し、2023年から活動を再開。



2023年の交流会のようす

みなさんからの尊い募金には感謝しています。浪江に帰りたい気持ちはみんな持っています。しかし、帰還できる人ばかりではない。そんな不安を吐き出せる、故郷の言葉で話せる場として、今後も活動を続けていきます。（代表・半谷とよ子さん）